

# RETAILER ACADEMY NEWS

Sep 2023 | Bentley Motors Japan



## 初代コンチネンタルGTのオマージュ マリナーの最新作としてモンレーで発表

ベントレーのビスポーク部門であるマリナーが、8月に米国・カリフォルニア州で開催されたモンレー・カー・ウィークで、初代コンチネンタルGTからインスピレーションを得て製造した特別仕様のコンチネンタルGT Speedを発表しました。今年がコンチネンタルGT誕生から20周年であることを記念し、1台のみ製造されたこの車両は、現在はクルーのヘリテージコレクションとしてベントレー本社が所有する2003年にクルーの生産ラインからロールアウトした最初のコンチネンタルGT (VIN20001) とともに、ザ・クエイル モータースポーツ・ギャザリアに展示され、多くの人から注目を集めました。

ヘリテージコレクションの初代コンチネンタルGTは、ボディカラーはサイプレスグリーンで塗装され、インテリアはレザーカラーがサドル、ヴェニアはパーウォルナットで仕上げられています。特別仕様車は、この偉大な初代モデルの仕様をできる限り忠実に再現しました。インテリアはレザーカラーにサドルを使いつつ、アクセントカラーにスペシャルグリーンを、コントラストカラーのステッチにもグリーンを採用しました。フェイスパネルとウェストレールパネルには、上にオープンポア ダークパーウォルナット、下に光沢仕上げのダークパーウォルナットの2種類を使用し、内外装をつなぐテーマであるサイプレスのビンストライプにより、上下のウッドパネルが分割されています。

ブラックライン スペシフィケーション、ツーリング スペシフィケーション、スタイリング スペシフィケーションには、ポリッシュ仕上げしたブ



3代目



初代

初代GT (写真右) をできる限り忠実に再現した3代目GT (左) のインテリア。

ラックのブライトウェアが採用され、カーボンファイバー製フロントスプリッター、サイドスカート、リアディフューザー、トランクリッドスポイラーといった一連のテクニカル仕上げの外装パーツが追加されています。マリナー専用デザインの22インチホイールは、ダークグレーステンで仕上げられており、中央の「B」バッジは走行時でも直立したままになるセルフレベリングバッジです。

このほか、オーディオシステムには車内をコンサートホールのような音響空間に変えるNaim for Bentleyや、ベントレー ローテーションディスプレイが装備されています。さらに、トレッドプレートにはコン

チネンタルGTの20周年を示すテキストと初代および3代目のホイールのシルエットが刻印されています。センターコンソールにも初代のホイールのシルエットが描かれ、フェイスパネルとアウターシルには初代および3代目のシルエットが描かれています。

なお、この記念すべき車両は、すでに米国人コレクターに売却されており、ザ・クエイルで新しいオーナーに引き渡されました。これが、ベントレーの歴史の節目を祝福する4カ月間の活動とイベントのハイライトとなりました。





## COMPETITOR INFORMATION



# 正常進化を遂げたピュアスーパーカー マクラーレン 750S

マクラーレンは、2023年4月26日にニューモデルのマクラーレン 750S/750Sスパイダーを発表しました。  
日本では8月3日に初公開イベントを実施。全世界的なデリバリーは2023年最終四半期の予定です。

### SUMMARY

- 同社のシリーズ生産モデルとしては最も軽量かつ最もパワフルなスペック
- パワーウェイトレシオはスポーツカーセグメント最高の1.70kg/PSで、フェラーリ 296GTBの1.77kg/PSを上回る
- 前モデルの720Sから約30%のコンポーネントを刷新。乾燥重量は1,277kgで、フェラーリ 296GTBより193kg軽量
- スパイダーは、上部構造のカーボンファイバー化とコンポジット製リトラクタブルハードトップにより、クーペからの重量増加は49kg
- 0-100km/h加速は2.8秒。0-200km/h加速は7.2秒（スパイダー：7.3秒）。最高速度は332km/h



### INTERIOR

- 軽量化された新デザインのメーターディスプレイは、新たにステアリングコラムに設置
- メーターディスプレイ左右にアクティブダイナミクスの設定用ロッカースイッチを配置することで、ステアリングを握ったままサスペンションとパワートレインのモード変更が可能
- 空力、ハンドリング、パワートレイン、トランスミッションの各設定から自分だけのダイナミクス設定を記憶させてすぐに呼び出せるマクラーレン・コントロール・ローンチャーを初採用
- リアのラゲッジシェルフに二重ガラスのパネルをはめ込み、室内からV8エンジンが見えるようにしたデザインをクーペに採用
- 「テックラックス」「パフォーマンス」という2つのインテリアテーマにより、オールナッパレザーとアルカンターラ/ナッパレザーの組み合わせを選択可能



### EXTERIOR

- 720Sと同様の基本設計を踏襲しながら、ダウンフォース量を増加させることで空力バランスを向上
- 外観の変更点は、前後バンパーの変更、フロントスプリッターの拡大、カーボンファイバー製アクティブリアウィングの延長など
- エグゾーストパイプは720Sの左右2本出しからマクラーレンP1譲りのセンサー出しに変更
- ヘッドライト周囲は、オプションでボディカラーかカーボンファイバーを選択することが可能
- マクラーレンのシリーズ生産モデルとしては最軽量となる新デザインの10本スポークホイールを採用。ホイール合計で13.8kgの軽量化を実現



### TECHNOLOGY

- レーシングシート、ホイール、メーターディスプレイ、フロントガラスなどの徹底した軽量化により、720SからDIN重量を30kg削減
- 4.0LツインターボV8ガソリンエンジンは最高出力750PS、最大トルク800Nmを発揮。前モデルの720Sからそれぞれ30PS、30Nm向上
- 7速デュアルクラッチ式シームレスシフトギアボックスは、前モデルに比べ加速を引き上げるギアレシオに変更
- サスペンションは、720Sよりフロントを柔らかく、リアを硬く調整。さらにストラット内の専用アキュムレーターのチューニングを見直すことで優れたバランスを実現
- 新世代の油圧リンク式サスペンションとなるPCC IIIを搭載。新たな軽量スプリング/ダンパー、ジオメトリの変更などにより、サスペンションのパフォーマンスレベルをさらに向上



### PRICE

マクラーレン 750S:	39,300,000円(税込)
マクラーレン 750Sスパイダー:	43,000,000円(税込)



## COMPETITOR INFORMATION



### BRAND STORY

## 60 YEARS OF McLaren

ホンダエンジンによりマクラーレンに黄金時代をもたらしたMP4/4（手前）とMP4/5B（奥）

### レースとともに歩んだ60年の歴史

英国のスポーツカーメーカーとして独自性の高い設計を行うマクラーレンは、2023年に創立60周年を迎えました。レースへの情熱からスポーツカー製造に至るマクラーレンの輝かしい歴史を振り返ります。

#### <マクラーレンの創設者 ブルース・マクラーレン>

マクラーレンの歴史は、創業者のブルース・マクラーレンが1963年にレーシングチームを設立したことにはじまります。1937年にニュージーランドで生まれたブルース・マクラーレンは、早くからレースで非凡な才能を発揮。1959年にクーパーからF1デビューを果たすと、その年の最終戦で初優勝。22歳と104日でのF1優勝は、その後43年間にわたって最年少記録でした。

#### <ブルース・マクラーレンの栄光と悲劇>

1963年に自身のレーシングチームを設立すると、ブルース・マクラーレンはドライバー兼エンジニアとして才能を開花させます。1966年にはコンストラクターとしてF1参戦。チームオーナー兼ドライバーの二刀流で活躍し、1968年には自身のチームで初優勝を遂げました。また、アメリカのCan-Amシリーズではシリーズタイトルを獲得。さらにCan-Amマシンをベースにしたロードカーを市販する計画も進め

ていました。しかし、ブルース・マクラーレンは1970年6月にCan-Amマシンのテスト中に事故死。わずか32歳でこの世を去りました。ブルースの死により、「M6GT」と呼ばれたスポーツカー計画も幻に終わりました。



#### <F1コンストラクターとして活躍>

ブルースの死後もF1活動は継続され、1974年にはエマーソン・フィッティパルディのドライブにより初タイトルを獲得。1981年にはF1初のカーボンファイバー製モノコックを採用したMP4/1が誕生します。1984年にはボルシェ設計のターボエンジンを搭載するMP4/2をドライブしたニキ・ラウダがタイトルを獲得。1985年と1986年にはアラン・プロストが2年連続でドライバーズタイトルを獲得しました。そして1988年にはホンダ製ターボエンジンを搭載したMP4/4がデビュー。アイルトン・セナとアラン・プロストのコンビにより、16戦中

15勝という圧倒的な強さを見せ、アイルトン・セナが初のタイトルを獲得しました。

#### <ル・マン優勝をもたらした究極のスポーツカー>

1993年に発表されたマクラーレン F1は、マクラーレンの新たなプロジェクトとして誕生したモデルです。世界最速のスポーツカーを開発するという野心的なプロジェクトの担当者は、マクラーレン MP4/4を設計したF1デザイナーのゴードン・マレー。一切の妥協を排しスポーツカーとしての理想を追求した設計により、ロードカーとしてはもちろんレースカーとしても類まれなパフォーマンスを発揮。1996年のル・マン24時間レースで総合優勝を果たすなど、名実ともに究極のスポーツカーとなりました。



#### <スポーツカー製造へ進出>

2010年にはスポーツカー製造を行うマクラーレン・オートモーティブを設立。2011年には初の量産スポーツカーとなる「MP4-12C」を発表しました。マクラーレンF1譲りのカーボンファイバーシャシーを備える革新的な設計が特徴で、それはマクラーレン全車の特徴となりました。現在は「GT」「スーパーカー」「アルティメイト」の3カテゴリでスポーツカー製造を行っています。



## HERITAGE

ベントレー モーターズと英国のザ・リトルカー・カンパニーはこのほど、ベントレーの往年の名車「ブローワー」を85%の縮尺で再現した、公道走行可能な「ブローワー ジュニア」を発表しました。元になった車両は、ベントレーのヘリテージコレクションに収蔵されている1929年製スーパーチャージャー付き4 1/2リッターの2号車です。ブローワー ジュニアは、他のベントレーと同様の基準により手作業で製作され、オリジナルの車両からインスピレーションを得た美しいディテールを備えています。

特筆すべきはパワートレインです。ブローワー ジュニアに搭載されているのは、15kWhのモーターを搭載した48V電動パワートレインで、英国およびEUで行ったテストでは最高速度約72km/h（米国では法規制により約40km/h）、大人2人がタンデムで乗車した場合でも航続距離は約104kmに達します。

ブローワー ジュニアは、ザ・リトルカー・カンパニーとベントレー ヘリテージコレクションのコラボレーションによって誕生。ザ・リトルカー・カンパニーは、2500万ポンドの保険がかけられている1929年製のブローワーを使用し、85%にスケールダウンしたブローワー ジュニアの設計図を完成させ、ディテールまで忠実に再現しました。ブローワー ジュニアは全長3.7m、全幅1.5mで、自動車の専門家でさえ思わず目を留めてしまうほど素晴らしい仕上がりになりました。ザ・リトル



## 名車「ブローワー」が85%サイズのEVに究極のシティカーとして復活

カー・カンパニーがこれまで製造してきた車両と異なるのは、ブローワー ジュニアは公道走行が可能であることです。現在は英国、欧州、米国でのみ行動での走行が認められています。

ブローワー ジュニアは1～99台までを「ファーストエディション」として、「1 of 99」のナンバリング入りプレートや、ボンネット、ドアシル プレート、ダッシュボードにファーストエディションのバッジなど

特別装備が装着されます。すべてのファーストエディションは、ボディとシャシー、ホイールのカラーが「ブローワー グリーン」で、オリジナルと同様にボディ両側にユニオンフラッグが描かれます。





# デリバティブの頂点に君臨する ベンティガ EWB Mulliner 登場



ベントレー モーターズはこのほど、ベンティガ EWB Mullinerを発表しました。販売店の皆様にもベントレー モーターズ ジャパンからご案内済みですが、ベンティガ EWBシリーズの頂点に君臨するベントレーの新たなフラッグシップモデルの特徴を、あらためてご紹介します。

## EXTERIOR

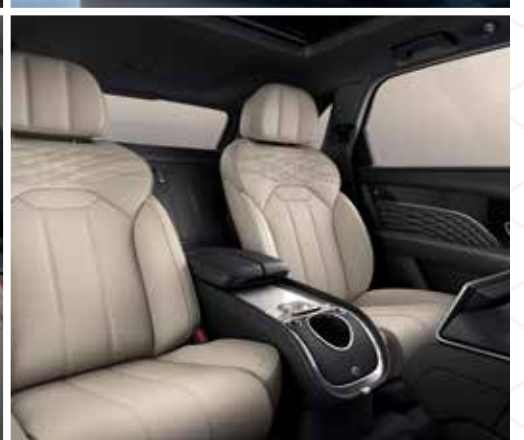
他のモデルと同様に、Mullinerデリバティブ専用デザインのエクステリアが採用されています。



- ダブルダイヤモンド グリル&フェンダーベント
- サテン ムーンビームシルバーペイント仕上げのミラーカバー
- Mulliner専用デザイン22インチホイール（3種類の仕上げ、セルフレベリングパッジ付き）
- ブラックライン スペシフィケーション選択可・Mulliner専用ディープパイル オーバーマット

## INTERIOR

ベンティガ EWBのコンセプト「最も格調高く快適なベンティガ」を具現化した専用装備の数々。世界をリードするラグジュアリーで、究極の快適性とスペースを提供するインテリアを実現しました。



- Mullinerハーモニー ダイヤモンド キルト
- 「MULLINER」ロゴ刺繍
- ドライバー インフォメーション パネルのMulliner専用グラフィック
- Mulliner専用車載クロック
- Mulliner 3D ダイヤモンド ミルド仕上げのセンターコンソール
- グランドブラック ヴェニア
- サステナブルな手法で加工されたオリーブタン レザー
- フェイシア、ウェストレール、ピクニックテーブルへのクローム オーバーレイ
- Mullinerイルミネテッド トレッドプレート
- Mulliner専用ディープパイル オーバーマット



### Mullinerビスポーク インテリア

Mullinerデリバティブで標準仕様として提供される「Mullinerビスポーク インテリア」では、標準色の15色にMulliner専用カラーのホワイト、ブリーズ、ストラトスを加えた計18色から、3色を自由に組み合わせることができ、お客様に究極のパーソナライゼーションの機会を提供します。Mullinerビスポーク インテリアを選択されないお客様には、ベントレーからの提案として、8種類のコンビネーションからお選びいただけます。



## 車載オーディオの新たなベンチマーク Naim for Mulliner

ベントレー モーターズはこのほど、バトゥールのお客様に提供する特別仕様の新しいサウンドシステムのオプション「Naim for Mulliner」の詳細を発表しました。クルー工場でマリナーの熟練工が手作業で製作する18台限定のバトゥール向けに、25,000ポンドのオプションとして提供されます。

ベントレーとNaimは、15年以上にわたるパートナーシップにより、「Naim for Bentley」は現在入手可能な車載オーディオシステムの中で、最も印象的なサウンドシステムの1つされています。しかし、バトゥールのプロジェクトが発表されると、クルーのエンジニアたちは車載オーディオの次なるベンチマークを計画し始めたのです。

Naim for Mullinerは、バトゥールのために設計された20個のスピーカーに対し、56以上の要件と推奨事項が設定されました。開発作業にかかった時間は10,000時間。ベントレーとNaimの技術革新の成



果を結集し、最高峰の車載オーディオを完成させました。

20個のスピーカースystemは、6個のツイーター、9個のミッドレンジスピーカー、2つのウーファー、2個のアクティブベーストランスデューサー、1個のサブウーファーで構成されています。アディティブマニファクチャリング（3Dプリント技術）を用いて製作された専用のスピーカーバスケットに収められた特注のフォーカルスピーカードライバを使用することで、パフォーマンスは大幅に向上。すべてのミッドレンジスピーカーとツイーターには専用の新しいスピーカードライバが搭載されているほか、ウーファーとサブウーファーにはリニアリティとダイナミクスを改善するための改良が施されています。



## EXPERIENCE

### クルーでリアルとデジタルを融合させた 新パーソナライズド カスタマーツアー開始



ベントレー モーターズはこのほど、英国・クルー本社に新しいラグジュアリー ビジターセンターとCW1ハウスにおいて、リアルとデジタルを融合させた完全没入型体験ができるカスタマー エクスペリエンスの提供を開始しました。このツアーでは、お客様はご自身のベントレーのデザインレガシーを作成したり、没入体験型3Dリニアージュエクスペリエンス（博物館体験）でベントレーの長い歴史を楽しんだりすることができます。さらにツアーでは、お客様を専属ホスト役のスタッフが迎え、お客様一人ひとりに合わせたファクトリーツアーを企画。最終的な車両の仕様を決定するアイデアをサポートします。

ツアー中、お客様にはカスタムアートを作成するあらゆる機会を提供します。最新の塗装仕上げ、サステナブルなレザー、ステッチのデザイン、最高品質のウッドパネル、カーペット、シートベルトなどを常駐のデザインコンサルタントとともに、「夢のベントレー」を実現するための組み合わせや最終的な美しさに関するアドバイスを受けることができます。

ブランドエクスペリエンス担当の責任者であるカレン・ジョクナーは、「CW1ハウスは、エクスクルーシブな環境でお客様をお迎えし、ベントレーブランドに浸って楽しんでいただける場所です。最高品質の素材を扱う職人たちの技と情熱は、リニアージュ（博物館）の180°ショーをはじめとする没入体験型の革新的なデジタル技術に支えられています。お客様それぞれのファクトリーツアーのカスタマイズが可能です」などと語っています。

## BEYOND 100

### マンチェスター・プライドで 特別仕様のGTCがパレードに参加



ベントレー モーターズはこのほど、英国・マンチェスターで開催されたLGBTQ+の祭典「マンチェスター・プライド」に、特別なラッピングを施したコンチネンタルGTCがパレードに参加しました。ベントレーのデザイナーであるリッチ・モリスが手掛けたこのGTCは、誰もが団結し、愛と祝福の精神で集うことができるプライドの多様性を表現しています。モリスは、「伝統的なプライドカラーにフォーカスし、大胆で美しく、同時にシンプルでダイレクトに訴えるものを作りたかった。このGTCを見た人が、何を象徴しているのかを瞬時に理解できるように、プライドフラッグの6色を使うことにしました。複数の線が交差してダイヤモンドパターンを作り出していますが、これはダイヤモンドキルティングを意識しています」などと語っています。

人目を引くこのGTCは、レインボーストライプのパターンが特徴で、LGBTQ+の権利に対する連帯と支持を示すパレードにおいて、イベント参加者や見物客らに強いインパクトを与えました。

ベントレー モーターズのカレン・ランゲ取締役（人事担当）は、「このGTCは、クルー本社と世界中のベントレー社員の多様性を反映しています。インクルージョンは、ベントレーにとって年間を通じたコミットメントであり続けています」などとコメントしています。



# 直噴（DI）とポート噴射（PFI）

エンジンは燃焼室の中に燃料を送らなくては燃焼することができません。現在、その方法は燃焼室に直接に噴射する直噴（DI）と、その手前の吸気管（インテークマニホールド）に噴射するポート噴射（PFI）の2種類があります。その違いはどのようなものなのでしょうか。

## 直噴（DI）とポート噴射（PFI）の違い

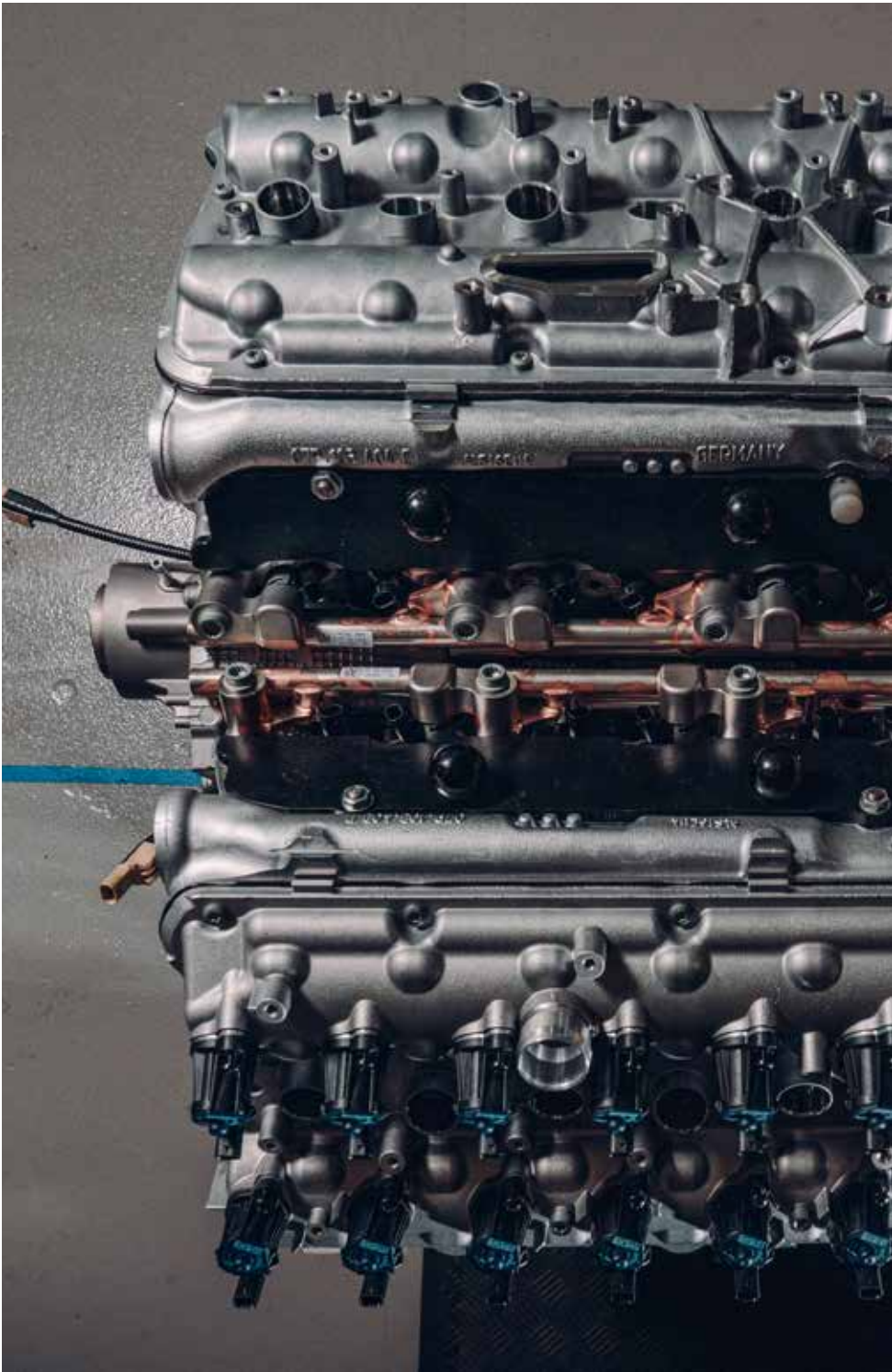
エンジンの燃焼室に燃料を送り込む方法には、直噴(DI)とポート噴射(PFI)の2種類があります。直噴(DI)は、燃焼室の中に直接に燃料を噴射する方法です。最初にディーゼル・エンジン車に始まり、後にガソリン・エンジン車でも採用されるようになりました。また、直噴（DI）は燃焼室の温度を冷やす作用があるため、ノッキング対策に有効で、ターボなどの加給エンジンと相性が良いのも特徴です。ポート噴射（PFI）は、燃焼室の前にある吸気管（インテークマニホールド）に燃焼を噴射する方法です。直噴（DI）よりも先に普及した技術で、現在でも主流の方式となっています。また、直噴（DI）は新しい方法ですが、デメリットもあるため、ポート噴射（PFI）と併用するケースもあります。



直噴（DI）とポート噴射（PFI）を併用したボッシュの製品。写真はポート噴射（PFI）の状態。



直噴（DI）とポート噴射（PFI）を併用したボッシュの製品。写真は直噴（DI）の状態。



## 直噴（DI）のメリットとデメリット

新しい技術である直噴(DI)方式ですが、メリットだけでなくデメリットもあります。そのため、ポート噴射(PFI)方式と併用されることもあります。

メリット	デメリット
緻密な燃焼噴射が可能	インジェクターのレイアウトが難しい
燃焼室の温度を下げてノッキング対策になる	コストがアップする
圧縮比をアップできる	NO x／HCの増加など排気ガス性能が不利
高出力化・高効率化が可能	吸気管の中に汚れがたまりやすい

## ベントレーモデルによる直噴（DI）とポート噴射（PFI）、併用の採用状況の例



BENTAYGA

W12スピード（6リッター W12）

直噴（DI）とポート噴射（PFI）併用

S（4リッター V8）

直噴（DI）



BENTAYGA EWB

ベンティガEWB（4リッター V 8）

直噴（DI）



CONTINENTAL GT

GTスピード（6リッター W12）

直噴（DI）とポート噴射（PFI）併用

GT-Sコンバーチブル（4リッター V 8）

直噴（DI）



FLYING SPUR

フライングスパー（6リッター W12）

直噴（DI）とポート噴射（PFI）併用

V6ハイブリッド（2.9リッター V 6＋モーター）

直噴（DI）